

史料群としての東大寺文書、その成り立ち

— 『大日本古文書』 編纂の体験から —

遠藤基郎

はじめに

これまでの出版：東大寺図書館所蔵東大寺文書（未成巻文書）16冊～20冊（現在は21冊の編纂途中）

内容：16冊（1-5 架周防国衙領・1-6 周防与田保・1-7 周防仁井令） 17冊（1-8 大和窪荘・1-9 河上荘） 18冊（1-10 大和薬園荘・1-11 同櫟荘・1-12 播磨大部荘） 19冊（播磨大部荘） 20冊（1-13 大和玉井荘・1-14 遠江蒲御厨・1-15 撰津兵庫関） 21冊（撰津兵庫関・1-16 筑前観世音寺・1-17 燈油田大湯屋田）

1 東大寺文書の現状

東大寺史料の中の東大寺文書の位置：東大寺図書館の整理体系（横内 2004 年より）

表 1

函号	部類	件数	点数
	成巻文書	979 通	100 巻
	未成巻文書	8516 通	8516 通
	宝庫文書		235 通*1
101	古経巻 写経	175	365 巻
102	古経巻 版経	96	417 巻
103	宗性・凝然両師図書 目録	72	281 巻
104	卷子本 論疏等	392	555 巻
111	古写本 粘葉装及折 本	222	583 冊
112	古版本 折本・袋綴・ 旋風葉装	178	631 冊
113(1)	宗性・実弘 両師図書 目録	229	463 冊
113(2)	雑部	162	257 冊
114	法相部・律部	227	489 冊
121	華嚴部	695	1247 冊

122	俱舎部・起信論		
	俱舎部	553	637 冊
	起信論	22	51 冊
123	三論部	336	447 冊
124	因明部	683	746 冊
141	記録部	916	920 冊
141B	記録部(宝珠院寄託図 書)	98	98 冊
142	記録部	877	880 冊
143	記録部		
151	地図・拓本	171	177 点 (182 軸)
171	次第本	224	3140 冊
181	影写本	224	430 冊
薬	薬師院史料(文書部・ 記録部)		

* 件数・点数の空欄は、遠藤のデータの不備によるもの。

*1 重文指定のもののみ

東大寺文書の現状：東大寺図書館所蔵分と膨大な寺外所在分（正倉院所蔵東南院文書・東京大学文学部所蔵東大寺文書等々）

図書館の整理：『東大寺文書目録』の整理。東南院文書（明治5年(1871)献納）、成巻文書（明治29年(1896)編成）・未成巻文書（大正以後整理）・宝庫文書（未成巻整理時に本坊に残されたもの）・薬師院文書（昭和26年寄贈）等々

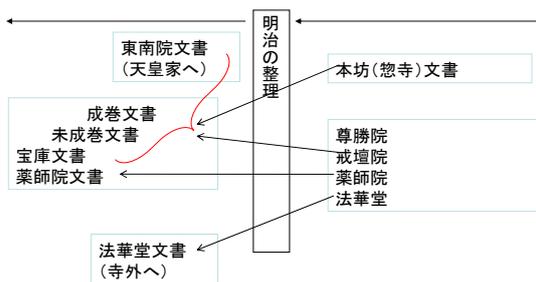


図 1

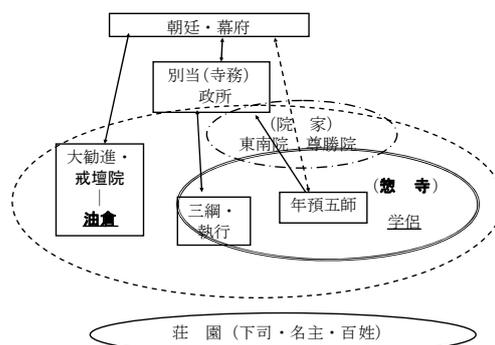


図 2

2 近世以前の保管伝来

東大寺の組織：「史料論とは組織論である」（永村 2000 年）。別当、本坊（惣寺・年預五師）、塔頭（院家・堂家、尊勝院・戒壇院・薬師院・法華堂・二月堂等々）。

印蔵（「油倉」）：東大寺文書の基幹部分は、平安時代以来印蔵で管理された（堀池 1980 年）。

【史料 1-1】正応 5 年(1292) 2 月 2 5 日東大寺年預（賢俊）文書勘渡帳（鎌倉遺文 23 冊 17829 号）

「大仏殿灯炉田民部卿入道寄進状一通〈正文在印蔵、〉」

「茜部庄年貢絹分兩和与状并六波羅下知状案〈正文在印蔵、〉」

「院宣案〈末寺々□加寺僧可執務由事、正文被置東南院経蔵、〉」

「了遍僧正請文案〈正文同被□東南院経蔵、如前勘渡、〉」

【史料 1-2】正和 2 年(1313) 2 月 2 5 日東大寺年預清寛文書勘渡状（鎌倉遺文 32 冊 24803 号）

「周防国務興行正安十三ヶ条関東御下知案一通并大勸進尊智上人并油倉房主等正文請取各一通」

印蔵保管以外の文書も存在。成巻文書・未成巻文書・宝庫文書と区別され、院家・堂家の名前を冠する薬師院文書・法華堂文書（勝山 2006 年）など。

成巻文書・未成巻文書・宝庫文書にも、非印蔵系と思われるものがある。

3 いくつかの事例

3-1 周防国衛関係文書

知行国周防：治承焼失後の再建事業に際して大勸進重源に付されたのが始まり。その後、代々大勸進が経営する。鎌倉期の大勸進はほとんどが寺外の僧侶。

成巻文書・未成巻文書中の周防国衛経営関係文書：ほとんどは 16 世紀以降のもの。

未成巻文書 1-5 架周防国衛領、『大日本古文書』では 189 件。うち鎌倉 4、南北朝期 7、室町前中期（応仁以前）7、室町後期（応仁以後）30、安土桃山 31、江戸前期 89、他無年号など。

新発見の周防国衛関連文書（吉川・小原他 2008 年）：第 2 代栄西・第 3 代行勇ゆかりの建仁寺にあったものを、東大寺寺僧の大勸進円照が文永年間(1294~1274)に書写。

表 2

文書名	年	月	日	宛所	内容
後鳥羽上皇院宣	建永1	10	2	葉上々人御房(榮西)	造東大寺勸進に任命
土御門天皇宣旨	建永1	10	11		前号院宣をうけ、大勸進任命
後鳥羽上皇院宣	(建永1)	10	29	大夫史殿(小槻国宗)	大勸進就任につき七ヶ条を裁許
後鳥羽上皇院宣	建治(保)3	7	9	大夫史殿(小槻国宗)	行勇を東大寺大勸進に任命
太政官符	建保3	10	15	東海道諸国司	行勇を東大寺大勸進に任命
関東御教書	建保3(4)	7	27		行勇の大勸進を認可
將軍源実朝家政所下文	建保4	8	6	東海諸国	官符施行
將軍源実朝家政所下文	建保4	8	8	東山道諸国	官符施行
関白九条道家御教書	寛喜3	1	11	庄(莊)巖坊律師御房(行勇)	周防国を付す
官宣旨	寛喜3	7	20	周防国	諸召物皆免
関東下知状	寛喜3	11	26	周防国公領地頭并在庁官人	国務に従うように下知
関東御教書	寛喜3	11	26	駿河殿殿(北条重時) 掃部助殿(北条時盛)	国衛使と地頭との相論は京都で成敗するよう六波羅に命じる

3-2 大部荘関係文書

領家の変遷：東南院→惣寺→東南院→惣寺→東南院→惣寺（+東南院？）→惣寺+油倉

表 3

東南院知行期 I (~永仁2<1294>)		
1	建永2年1月日	東南院政所大部荘公文職補任状写 宝生院文書
2	貞永2年2月29日	六波羅下知状案 未成卷
3	<u>文永5年7月22日</u>	<u>播磨国大部庄米送状</u> 酒井宇吉氏所蔵文書
惣寺知行期 I (~徳治2年<1307>以前)		
4	永仁3年1月日	播磨国大部荘百姓等重申状 未成卷
5	永仁3年2月日	東大寺三綱大法師等申状 未成卷
6	永仁6年5月4日	大部荘公文王久光余作請料未進用途請文 成卷文書
7	正安2年12月30日	東大寺衆徒連署起請文 水木直箭氏所蔵文書
東南院知行期 II (~元亨元年<1321>以前)		
8	徳治2年6月	東南院政所大部荘公文職補任状案 狩野亨吉氏蒐集文書
9	徳治2年6月日	東南院政所大部荘公文職補任状写 宝生院文書
10	元応2年5月23日	東南院政所下文案 狩野亨吉氏蒐集文書
惣寺知行期 II (~嘉暦元年<1326>)		
11	元亨2年9月日	播磨国大部荘公文尼覚性訴状 未成卷
12	元亨3年2月日	大部庄公文觀円息女熊野女申状 未成卷
13	元亨4年7月16日	大部荘納所衆起請文 竹内文平氏所蔵文書
14	嘉暦元年10月日	大部庄百姓平内重申状 未成卷
東南院知行期 III (~建武元年<1334>)		
15	嘉暦2年9月日	東南院政所下文案 未成卷
16	元徳3年12月5日	東南院政所大部荘公文職補任状写 宝生院文書
17	元弘元年12月13日	大部庄預所下文案 未成卷
惣寺知行期 IV (公文職は東南院知行下か?)		
18	建武2年7月5日	大部庄吉富名主等申状 未成卷
19	建武2年10月29日	梶取やくし大夫大部庄年貢米請文 未成卷
20	建武4年頃	大部庄年貢内検目録 未成卷
21	暦応3年6月20日	播磨国大部荘雑掌僧堯賢申状 未成卷
22	<u>暦応3年7月4日</u>	<u>大部荘公文尼性阿代古世弥次郎軍忠状写</u> 宝生院文書
23	貞和2年6月日	大部庄公文性阿申状 未成卷

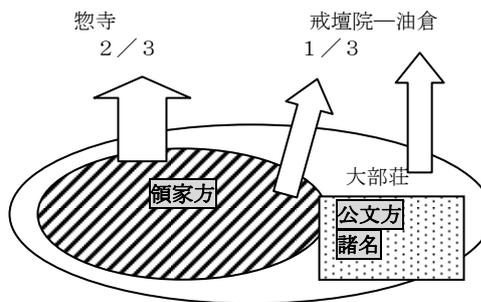
表 4

戒壇院—油倉系	惣寺系
応永十一年十二月廿三日 大部莊恒清・伊王・藤七名年貢算用状 [1/12/74] 応永十一年十二月廿三日 大部莊領家三分一方年貢算用状 [1/12/109・3/12/4] 永享七年十一月日 大部莊領家方名寄帳 [1/12/136] 文安四年十月日 大部莊領家方内検帳 [1/12/127・1/24/756-1] 文安五年十一月九日 大部莊公文方并恒清名等年貢納帳 [1/12/126] 宝徳元年十月日 大部莊公文方内検名寄帳 [3/12/446・1/12/138-1・6] 宝徳二年十月日 大部莊領家方内検帳 [1/12/124] 長禄元年十月日 大部莊一色方内検帳 [1/12/139] 長禄元年十一月日 大部莊在家銭帳 [1/12/134] (室町中期)六月三日大部莊百姓等申状 [1/25/647] *油倉宛	(応永廿六年カ) 東大寺公人成清・友清大部莊領家方三分二請文 [1/12/54] 正長二年六月日 東大寺衆徒群議事書案 [1/12/71] 永享三年二月十九日 大部莊領家方三分二代官職充行状案 [1/12/119] 永享十一年十一月六日 東大寺公人成清大部莊領家方三分二代官職請文 [1/12/51] * []内は、東大寺図書館架番号

伝来文書：惣寺知行と油倉知行関連文書。

東南院知行期は正文なし。

油倉経営期には内検帳など詳細な帳簿、百姓書状などが残る。本来、荘園経営権は東大寺惣寺と戒壇院で分轄。記録史料もそれぞれで作成・保管。



3-3 勸進所・戒壇院・油倉・楞伽院

鎌倉中期～：大勸進と勸進聖の連携→勸進所に附属する油倉。勸進聖（燈油聖）による戒壇院再興。勸進聖は水門楞伽院を拠点とした。

南北朝期～：大勸進職は戒壇院方丈（長老）が兼帯。大勸進＝戒壇院—油倉＝水門楞伽院。

南北朝・室町期は寺院財務経営の拠点となった（永村 1989 年）

文安～長禄頃(1444～1459)の遠江蒲御厨（在地公文他申状など）・摂津兵庫関（入船納帳）・周防国衙・丹後後川荘（百姓申状など）などの関連文書。大部莊と同様の傾向。

明治 12 年 8 月「戒壇院古文章・古器等調査」、(明治 29 年成巻文書編成)、明治 42 年 4 月戒壇院より古巻書を運搬。（横内 2004 年）

むすびにかえて

残存の偏差：久野 1990 年。院政期は別当、執行・三綱系、鎌倉末期・南北朝期は惣寺・年預五師系、室町中期は戒壇院・油倉系。

表 5

時代	寺内	寺外	計
奈良時代	21	26	47
平安前期	6	14	20
平安中期	36	50	86
平安後期	205	168	373
平安院政	779	459	1238
鎌倉前期	304	197	501
鎌倉中期	864	390	1254
鎌倉後期	1250	378	1628
南北朝	1150	318	1468
室町前期	538	105	643
室町中期	884	329	1213
室町後期	613	171	784
安土桃山	396	69	465

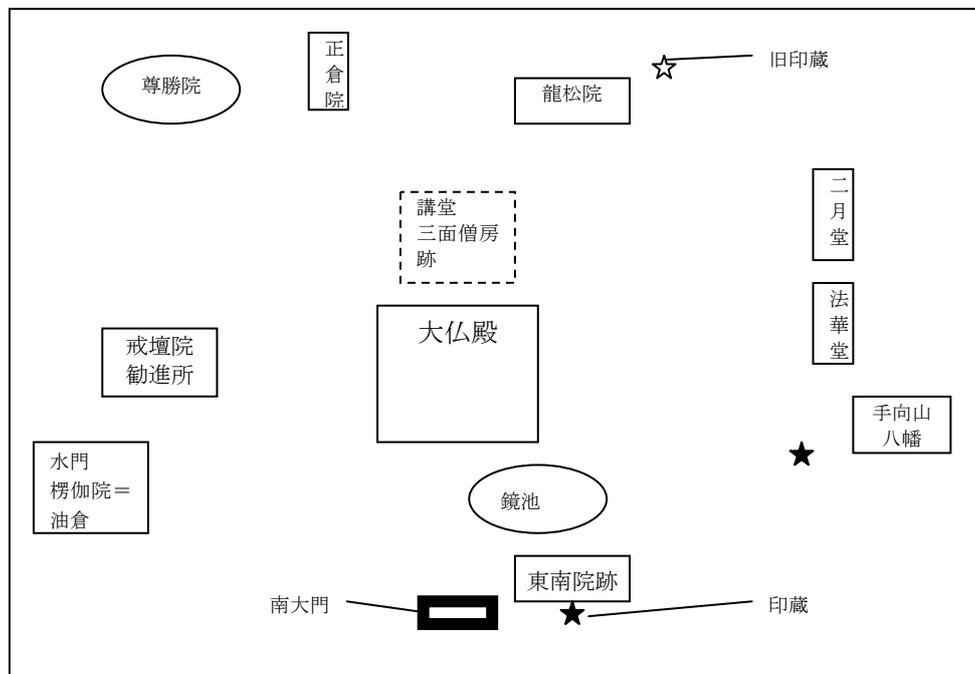
* 東南院文書は除く。

【史料2】足利義輝御判御教書（京都大学文学部所蔵東大寺文書）

□□□證文事、先年当寺回録之刻紛失云々、然寺領諸国所々（目録在別紙）早任当知行之^{〔之状〕}旨寺家弥可全領知□□如件、
永禄二年七月廿九日
参議左近衛権中將源朝臣（花押）

【参考文献】

- 勝山清次編、『南都寺院文書の世界』思文閣出版、2007年
- 永村眞『中世寺院史料論』吉川弘文館、2000年
- 永村眞『中世東大寺の組織と経営』第4章東大寺油倉の成立とその経済諸活動、塙書房、1989年
- 久野修義編『京都大学文学部 博物館の古文書 第6輯 東大寺文書』思文閣出版、1990年
- 堀池春峰「印蔵と東大寺文書の伝来」『南都仏教史の研究』上、東大寺篇、法蔵館、1980年
- 堀池春峰監修『東大寺文書を読む』思文閣出版、2001年
- 横内裕人「東大寺図書館と収蔵史料」『古文書研究』59、2004年
- 吉川聡、小原嘉記、遠藤基郎「東大寺大勸進文書集」の研究『南都佛教』91、2008.12
- 「東大寺所蔵聖教文書の調査研究」（科学研究費補助金基盤研究成果報告書、代表者綾村宏、2005年）
- 「中世寺院における内部集団史料の調査・研究」（科学研究費補助金基盤研究成果報告書、代表者勝山清次、2006年）



東大寺境内概念図